

インド鉄鋼需給の現状と見通し（要約版）

2004 年 11 月 19 日
（社）日本鉄鋼連盟
輸出市場調査委員会

1. インドの鋼材需要と生産

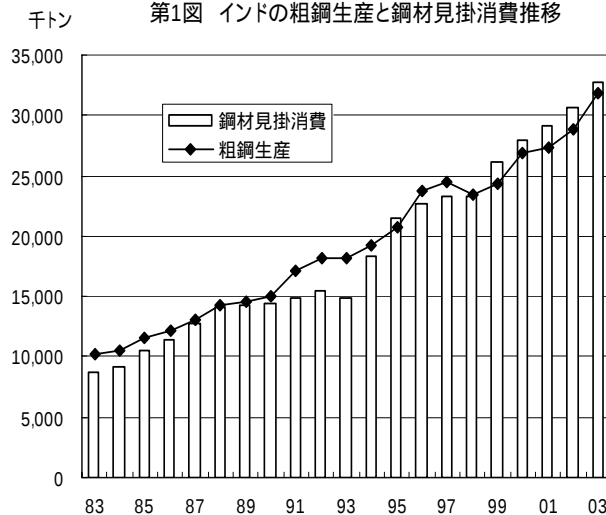
（1）鋼材需要

インドの 2003 年度（03 年 4 月～04 年 3 月）の鋼材ベースでの見掛消費量（生産＋輸入－輸出）は 3,277 万トンとなった。中国のような爆発的な伸びではないものの、過去 10 年間で約 2 倍と着実に増加している。ただし 1 人当たりの鋼材消費量は 03 年現在でも 29.6Kg にすぎず（中国は 208Kg）今後の更なる拡大が期待される。

鋼材見掛消費に占める輸入の比率（03 年度）は 5.5%で、中国（03 暦年で 14.0%）に比べ輸入依存度は低い。また生産に対する輸出の比率は 14.2%で、中国（同 3.0%）を上回る。

輸入を除く部門別鋼材消費（03 年度推定）では、建設が全体の 26%、機械 12%、インフラ関連 9%、エネルギー関連 6%、自動車 5%等で、多岐の産業にわたっている。

第1図 インドの粗鋼生産と鋼材見掛消費推移



注：粗鋼生産は暦年、鋼材見掛消費は年度
出所：粗鋼生産 IISI、鋼材見掛消費 SSERC

第1表 鋼材見掛消費（千トン）

年度	生産	輸入	輸出	見掛消費
1994	17,701	706	1,039	18,368
1995	21,314	1,536	1,352	21,498
1996	22,743	1,565	1,687	22,621
1997	23,576	1,588	1,882	23,282
1998	23,887	1,132	1,787	23,232
1999	27,176	1,600	2,670	26,106
2000	29,251	1,418	2,666	28,003
2001	30,624	1,271	2,704	29,191
2002	33,625	1,510	4,497	30,638
2003	36,101	1,815	5,144	32,772

出所：SSERC(Spark Steel & Economy Research Centre)
注：輸出入は半製品を含まず。

第2表 品種別鋼材生産推移（千トン、%）

品種 \ 年度		2001		2002		2003		
			前年比		前年比		前年比	構成比
棒	鋼	5,766	99.9	6,241	108.2	6,457	103.5	17.9
線	材	4,242	112.2	4,455	105.0	4,698	105.5	13.0
形	鋼	2,325	100.0	2,323	99.9	2,974	128.0	8.2
軌	条	712	119.3	893	125.4	930	104.1	2.6
条	鋼 類 計	13,045	104.6	13,912	106.6	15,059	108.2	41.7
厚	板	1,774	95.6	1,835	103.4	2,172	118.4	6.0
熱 延 薄	板	645	132.7	519	80.5	726	139.9	2.0
熱 延 帯	鋼	7,383	97.5	8,688	117.7	9,127	105.1	25.3
冷 延	鋼 板	4,586	109.5	5,055	110.2	5,608	110.9	15.5
亜鉛めっき	鋼板	2,359	122.9	2,790	118.3	2,540	91.0	7.0
電 気	鋼 板	130	123.8	158	121.5	131	82.9	0.4
ブ リ	キ	136	96.5	148	108.8	153	103.4	0.4
ブラックプレート		25	67.6	33	132.0	28	84.8	0.1
鋼 板 類 計		17,038	104.5	19,226	112.8	20,485	106.5	56.7
鋼 管 (大 径)		541	115.1	487	90.0	557	114.4	1.5
完 成 鋼 材 合 計		30,624	104.7	33,625	109.8	36,101	107.4	100.0

出所：SSERC (Spark Steel & Economy Research Centre)

(2) 鉄鋼生産

粗鋼生産は増加傾向を辿っており、03 暦年の生産は 3,178 万トンと初めて 3,000 万トンを超え、世界第 8 位となった。中国の約 14%の水準である。

インドでは伝統的に還元鉄の生産が多く、03 年度には 809 万トンに達した。天然ガスベースと石炭ベースの生産はほぼ拮抗しているが、中小規模の生産者が多い石炭ベースの生産増大は特に顕著である。

鋼材生産も増加が続いており、03 年度には前年比 7.4%増の 3,610 万トンとなった。うち国営の SAIL、VIZAG、民間の TISCO の大手 3 社が 42%、その他が 58%を占めた。

鋼材生産の品種別内訳(03 年度)は、熱延帯鋼 25%、棒鋼 18%、冷延鋼板 16%、線材 13%、形鋼 8%、亜鉛めっき鋼板 7%の順で、条鋼・鋼板比率は 42:58 と鋼板が約 6 割を占め、中国における条板比率とは逆転している。

2. 生産能力と鋼材需給の展望

インドの粗鋼ベースでの生産能力は 02 年度現在で 3,500 万トン程度と推定される。近年では経済成長に伴う国内鉄鋼需要の高まりを受けて、国内大手ミルを中心に数多くの設備増強計画が発表されるに至っている。

鉄鋼省では、今後の鋼材ベースでの生産能力について、2012 年度に 6,000 万トン、2020 年度に 1 億トンとの見通しを明らかにしている。現在発表されている拡張計画が順調に実現すれば、2012 年度には 6,000 万トンの生産能力に達することは可能とみられるが、その後の予想についての評価は困難である。

一方、今後の国内需要がどの程度の水準で推移するかは定量的予測は困難であるが、04 年夏に発足した新政権が年 7~8%の経済成長を目標としていること、自動車や二輪車業界では 2010 年までに生産が 04 年比で倍増すると予測していること、高速道路、発電所、パイプライン敷設などのプロジェクトが推進されていることなどから、2012 年時点では鋼材生産能力の予想値 6,000 万トンに見合った需要量まで増加している可能性が高い。

第3表 還元鉄生産推移

(千トン)

年度	合計	天然ガス ベース	石炭 ベース
1999	5,340	3,462	1,878
2000	5,481	3,462	2,019
2001	5,658	3,171	2,487
2002	6,909	3,625	3,284
2003	8,085	3,976	4,109

出所：SSERC

第4表 主要鉄鋼ミルの現況と拡張計画
(2004~12年、粗鋼ベース、単位：千トン)

社名	現有能力	拡張計画
SAIL	11,600	+8,300
TISCO	4,000	+3,500
VIZAG	3,500	+3,300
Essar	2,500	+1,250
Ispat	2,400	+1,200
Jindal	2,500	+3,600
6社計	26,500	+21,150
その他	8,500	n.a.
全国計	35,000	n.a.

出所：各社HP、新聞情報、現地ヒヤリング等

注：TISCOの拡張計画にはオリッサ州新工場分は含まず。
時期未定の計画は含まず。

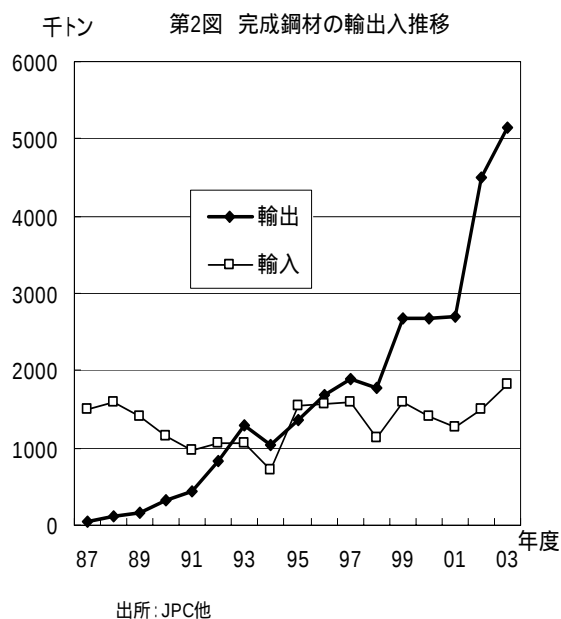
3. 鋼材輸出入

鋼材輸出は増加傾向にあり、03年度の鋼材輸出（半製品を含む）は前年度比17.4%増の582万トンとなった。品種別には熱延帯鋼、冷延鋼板、亜鉛めっき鋼板等の薄板類が主力である。輸出の向け先としては、02年は米国、03年は中国が最大であり、その他東南アジア諸国、中東、EU等の多くの国に輸出されている。

インドの輸出は、当面は国内需要が好調に推移するとみられることから、短期間に急増することは予想されないが、現在計画されている設備拡張計画が実現すれば輸出余力が増大する事態も起こりえよう。

鋼材輸入は安定的に推移しているが、03年度は半製品を含めて前年度比18.5%増の198万トンと比較的大きな伸びとなった。主要鋼材の関税率はインフレ対策のため04年8月現在で5%まで引き下げられた。

輸入の相手国としては、EU、ロシア、ウクライナ、日本、韓国が主要なものである。



第5表 品種別輸出推移 (千トン)

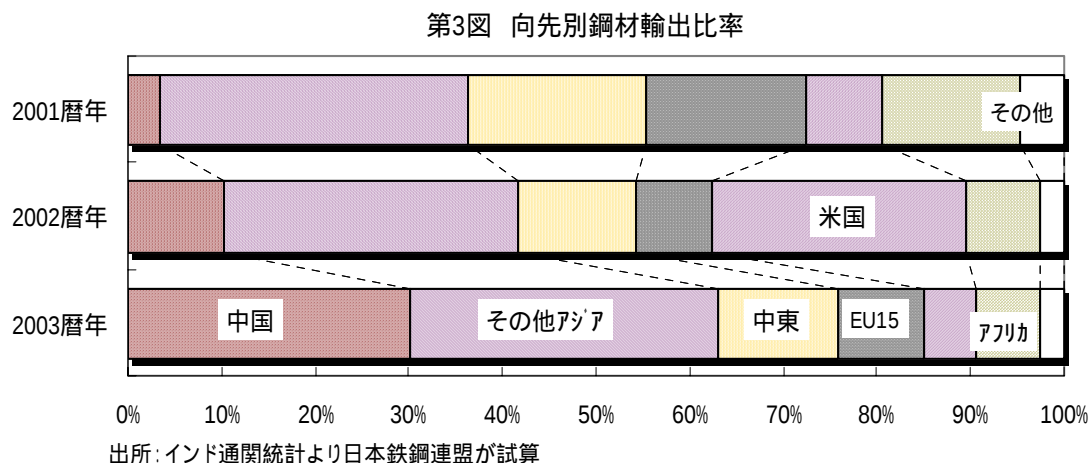
品種\年度	2001	2002	2003
半製品	282	458	671
棒鋼・線材	399	516	541
厚板	183	278	357
熱延薄板・帯鋼	979	1,393	1,700
冷延鋼板	320	574	972
亜鉛めっき鋼板	695	1,610	1,430
その他鋼材	128	126	144
完成鋼材計	2,704	4,497	5,144
合計	2,986	4,956	5,816

出所：大手鉄鋼ミル3社およびJPC

第6表 品種別輸入推移 (千トン)

品種\年度	2001	2002	2003
半製品	257	156	160
厚板	221	367	610
熱延帯鋼	362	318	404
冷延鋼板	204	303	250
亜鉛めっき鋼板	97	92	91
電気鋼板	62	52	104
鋼管(大径)	27	60	90
その他鋼材	298	318	266
完成鋼材計	1,271	1,510	1,815
合計	1,528	1,666	1,975

出所：JPC (Joint Plant Committee)



4．鉄鋼原料需給

(1) 鉄鉱石

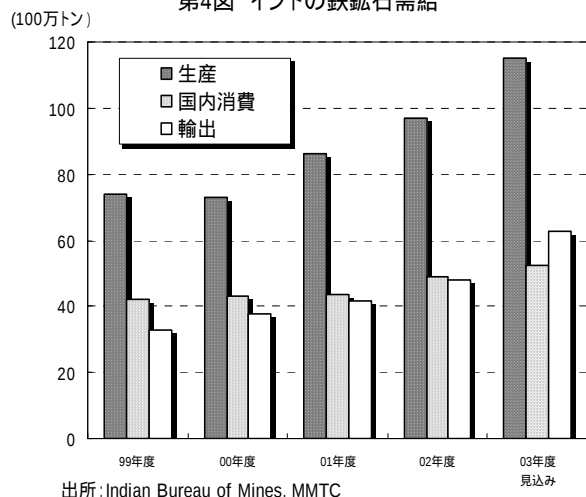
インドはブラジル、豪州、中国に次ぐ世界第4位の鉄鉱石生産国であり、ブラジルと並ぶ高品位の鉱石（Fe含有量64～65％）を産出する。埋蔵量は約177億トンと推定され、特に北東部のオリッサ州が豊富とされる。

鉄鉱石生産は内外需の伸張に伴い増加傾向を辿っており、03年度は初めて1億トンを超え1.15億トンに達した。生産のうち国内消費量は約5,230万トン、輸出は約6,270万トンで、輸出比率は54.5％である。

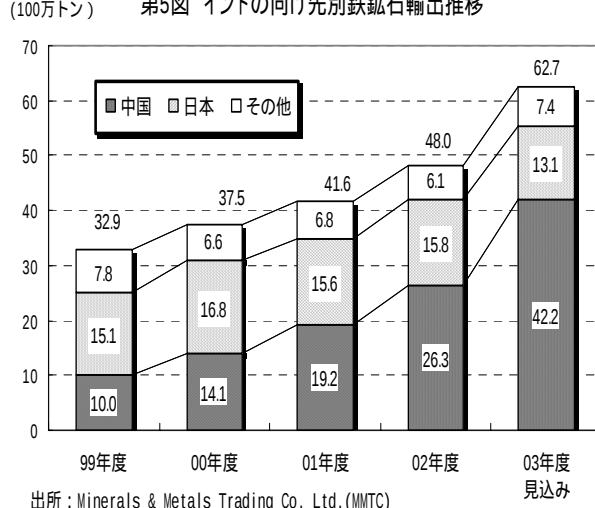
今後の生産については港湾、鉄道などのロジスティクス面での懸念はあるものの、豊富な埋蔵量を背景に順次拡大していくものとみられ、供給不足が発生する可能性は低い。

輸出は2000年度以降、中国の需要急増を反映して大きな伸びが続いている。03年度の向け先では中国が全体の67％、日本が21％を占めた。

第4図 インズの鉄鉱石需給



第5図 インズの向け先別鉄鉱石輸出推移



(2) 原料炭

インドの石炭生産量は、03年度で一般炭約3.27億トンに対し原料炭は約2,840万トン、うち金属産業向けは約1,730万トンであり、原料炭の比率は全体の8.0％（うち金属産業向けは4.9％）と低く、生産量も頭打ち状態にある。

原料炭に関しては輸入国であり、03年度の輸入は約1,200万トンで、金属産業向けの生産と併せた原料炭の国内消費量は約3,000万トンである。輸入依存度は年々高まる傾向にあり、主要な輸入先は豪州である。

コークスに関しては、03年度の生産は推定1,860万トンで、大手鉄鋼メーカー3社が約7割を生産している。輸入は200万トン台で推移しており、主な供給国は中国である。

第6図 インズの原料炭需給

